

## 一九七七年以前出土の木簡(七)

### 平城宮跡(第三九次調査)

- 1 所在地 奈良市法華寺町
- 2 調査期間 一九六六年(昭41)一〇月～一九六七年二月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 榎本亀次郎
- 5 遺跡の種類 宮殿・官衙跡、都城跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代初期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

発掘調査地域は、平城宮の東張出部西南隅に当る。検出した主な遺構は、宮域東面の外壕、東一坊大路西側溝にあたる南北溝SD四九五一、その付替えの溝であるSD五一〇〇・SD五〇五〇、東一坊大路東側溝に当る南北溝SD五〇三〇、二つの側溝の間の東一坊大路、東張出部南面外壕ならびに二条条間大路北側溝に当る東西溝SD五二〇〇、その前身の東西溝SD四九九九、二条条間大路南側

溝に当る東西溝SD五一七四、二つの溝の間の二条条間大路、門SB五〇〇〇、東張出部南面を区画する東西堀立柱塀SA五〇一〇、同じく東西築地SA五〇五五などである。

このうち注目すべき遺構としては、SB五〇〇〇がある。この門跡は東一坊大路をさえぎって立つ南面する門である。遺構の残存状況はよくなく、基壇の西半部は後世の流路によって破壊されているが、基壇の東半部積土や礎石据え付け痕跡三カ所、転倒した礎石二個などがみつかっている。この結果、門は礎石建ちの桁行五間(総長二四m)・梁間二間(総長一六m)の南面するものであったと推定されている。この門は出土木簡から小子(部)門という名称であったと考えられている。

SB五〇〇〇から東へ東西堀立柱塀SA五〇一〇、またその北に平行して東西築地SA五〇五五がのびる。両者は東張出部の南面を区画する施設で、SA五〇一〇がSA五〇五五より古い。

これらの遺構によって、宮域はこの地区でかつて関野貞が推定した東限より、さらに東へ張り出し、東一坊大路は北へのびずに、S

B五〇〇〇の前面で二条条間大路とL字形に接続することが明らかになった。

木簡が出土した遺構は、SD四九五一・SD五一〇〇・SD五〇五〇・SD四九九九・SD五二〇〇などの溝、SK五一〇四・SK五二四一・SK五一一六・SK五〇〇八・SK五〇一四などの土壇、SA五一五二・SA五一八六などの掘立柱塀の柱穴など一三の遺構で、出土総点数は四九一点である。

SD四九五一とSD五一〇〇、SD五〇五〇は、調査区西辺を北から南へ貫流する溝であるが、この三溝の関係は次のようになっている。SD四九五一は、南北に直線に流れる溝で、門SD五〇〇以南では宮域東面の外濠ならびに東一坊大路西側溝に当る。SD五一〇〇とSD五〇五〇は、のちにSD四九五一の水流を西側に迂回させるために作られた溝で、SD五一〇〇とSD五〇五〇とは門SB五〇〇〇の西北でSD四九五一から分岐し、SB五〇〇〇の西で両者は合流する。さらにSB五〇〇〇の南西で、SD四九五一に再び合流している、このSD五一〇〇とSD五〇五〇との設置は門SB五〇〇〇の造営と関連しているものと思われる。まず初めにSD五一〇〇が作られ、のちにSD五〇五〇に改修されたものである。

## 8 木簡の釈文・内容

### 溝SD四九五一

(1) [造東カ]  
□□内司運葛一百……出小子門]

・ 十月廿八日□……小野滋野]  
(786+116)×(22)×3 081 三〇〇六号

(2) ・ □五位上門部王 從四位□紀朝臣男人

|| 從五位上大□

・ □足  
□□  
□  
[若カ]  
□女 逆女  
足女 □廿一人  
(364)×27×5 081 二八四九号

(3) ・ 「主殿寮御炬 車持□[嶋カ]奴カ」  
鴨国嶋 真木  
『子祖父』吉末呂

|| 『又吉万呂』

・ 「婢古阿尼 酒虫女 多比女 名吉女 六月五日大」  
|| 属衣縫連大床」  
374×(6)×6 081 二八五〇号

(4) □□ [車持カ]  
□□ [車持カ]  
車持祖麻呂 鴨国嶋 『鴨大人』  
(285)×(6)×4 081 二八五一号

- (5) 「大政大臣成」  
100×23×5 011 二八五五号
- (6) 「戸主壬生部猪手<sup>〔丁カ〕</sup>年卅五正<sup>〔丁カ〕</sup>」  
「戸主壬生部猪手<sup>〔猪カ〕</sup>右手<sup>〔丁カ〕</sup>」  
「戸主壬生部<sup>〔猪カ〕</sup>」  
182×27×5 011 二八八五号
- (7) 下番<sup>〔丁カ〕</sup>「從八位上伊勢直大津<sup>〔丁カ〕</sup>」  
「下番大初位中<sup>〔丁カ〕</sup>麻呂<sup>〔丁カ〕</sup>」  
(204)×(6)×6 081 二八八八号
- (8) 「便從小子門出入之」  
「正六位上行大尉船連『船主』」  
(184)×(28)×3 081 三〇〇七号
- (9) 「板十五枚 黒葛一斤<sup>〔作カ〕</sup>如件<sup>〔作カ〕</sup>」  
八月<sup>〔作カ〕</sup>  
271×21×5 011 三〇〇九号
- (10) 「北西門請火事<sup>〔清カ〕</sup> 衛丈部<sup>〔清カ〕</sup>」  
「<sup>〔清カ〕</sup>」  
(198)×23×5 019 三〇〇八号
- (11) 「隱伎国周吉郡<sup>〔少カ〕</sup>郷<sup>〔少カ〕</sup>原里宗我部福男<sup>〔少カ〕</sup>」  
「<sup>〔龜三カ〕</sup>」  
182×26×3 031 二九〇一号

- (12) 「周防国大嶋郡屋代郷<sup>〔御カ〕</sup>」  
「調塩三<sup>〔御カ〕</sup>」  
(198)×27×7 039 二九〇八号
- (13) 「湯泉郡井門郷大田里久米大虫<sup>〔御カ〕</sup>」  
157×16×5 031 二九一七号
- (14) 「紀伊国安諦郡吉備郷<sup>〔御カ〕</sup>」  
「養老四年十月 持海<sup>〔御カ〕</sup>」  
(177)×21×5 039 二九一〇号
- (15) 「紀伊国伊東郡庸米六斗<sup>〔御カ〕</sup>」  
193×21×5 033 二九〇九号
- (16) 「讃岐国香川郡<sup>〔米カ〕</sup>里<sup>〔米カ〕</sup>秦広嶋<sup>〔米カ〕</sup>」  
158×21×4 031 二九一二号
- (17) 「美作<sup>〔美カ〕</sup>」  
102×(9)×5 032 二九一三号
- (18) 「余戸郷雜魚鰯一斗五升<sup>〔美カ〕</sup>」  
105×20×2 032 二九一四号
- (19) 「各田部里人<sup>〔五カ〕</sup>」  
139×16×3 033 二九一五号
- (20) 「<sup>〔国カ〕</sup>」  
「郷都波里庸米<sup>〔国カ〕</sup>」  
(84+97)×24×4 031 二九一六号
- (21) 「<sup>〔海カ〕</sup>」  
「<sup>〔海カ〕</sup>」  
228×19×5 033 二九一七号

- (22) 「 $\angle$ 水江軍布十六斤 $\angle$ 」 83×26×4 031 二九一八号
- (23) 「 $\angle$ 宜志 $\square\square\square\square\square\square$ 」 (115)×22×4 039 二九二二号
- (24) 「 $\angle$ 御取鰻六斤」 143×19×6 033 二九二二号
- (25) 「熟鰻」 74×15×3 051 二九一九号
- (26) 「藍灰」 94×14×(4) 011 二九一〇号
- (27) 「佐波理波」 168×17×5 051 二九一三号
- (28) 長各一丈一寸広各二寸半  
古麻比六長各 $\square$ 〔寸カ〕 (95)×26×(3) 081 三〇五七号
- (29) 「左京九条三坊」  
・「百文 $\square$ 人 $\square$ 」 (105)×(14)×5 081 三〇一六号
- (30)  $\square\square\square\square$   
・枝部犬 $\square$ 〔万カ〕  
・九陣 $\square$  (42)×(24)×2 081 三〇一七号
- (31)  $\square$ 「客人料」
- (32)  $\square\square\square\square$  (83)×42×4 081 三〇一八号  
SD五100  
・「常陸国那賀郡日部郷戸主物部大山戸口日下部」  
「桑方呂養」  
・「錢六百元 天平宝字四年正月廿日」 240×19×5 033 三〇七六号
- (33) 「 $\angle$ 尾張国知多郡富具郷野間 $\square$ 」〔里カ〕  
・「 $\angle$ 塩三斗 十月五日」 (197)×24×7 039 三〇八〇号
- (34) 「 $\angle$ 若狭国遠敷郡<sup>木津郷少海里</sup>土師電御調塩三斗 $\angle$ 」〔斗カ〕  
・「神龜五年九月十五日」 132×26×4 031 三〇八一号
- (35) 「 $\angle$ 紀伊国牟婁郡 $\square$ 」 (72)×25×3 039 三〇七一号
- (36) 「 $\square$ 郷 $\square$ 」〔万呂調楚割六斤〕 248×19×3 011 三〇七〇号
- (37) 「鹿角菜一籠」 185×17×4 011 三〇七三号
- (38) 「 $\square$ 十斤十兩カ $\square\square\square\square\square\square\angle$ 」 (72)×(12)×2 039 三〇七二号
- (39) 「 $\square$ 〔申カ〕以今月七日欲私蘆罷」

・五月七日 (160)×29×4 019 三〇六八号

(40) ・☐ ☐ ☐ ☐ ☐

・☐ ☐ ☐ ☐ ☐ [附力] 衛士申送 (97)×(9)×3 081 三〇九二号

(41) 「左衛士府」 115×(13)×12 011 三〇九三号

(42) ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ [五力] 斗 壬生君大田 一斗

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ 斗 (134)×25×4 081 三〇八八号

SD五〇五〇

(43) 「美作国勝田郡豊国郷中男茜」 169×25×5 033 三一一一号

(44) ・「謹謹有有者者有」

・☐ ☐ ☐ ☐ ☐ [件力] 229×24×2 061 三一一一号

(45) ・「官宮中大式民治件」

・「有官宮」☐ ☐ ☐ [中力] 大式 229×24×2 061 三一一二号

SK五一〇四

(46) ・「務所牒 作門所 庭<sup>四</sup>五人匠丁四 右充彼所」

・「少録船連鈴末呂 八月廿八日附委文末呂 363×43×4 011 三一七八号」

## 9 関係文献

奈良国立文化財研究所『平城宮木簡 三』(一九八一年)  
同『奈良国立文化財研究所年報 一九六七』(一九六七年)

(鬼頭清明)